

平成25年度
横浜市立高等学校
及び
南高等学校附属中学校
第三者評価結果

横浜市教育委員会
高校教育課

平成 25 年度横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校第三者評価結果について

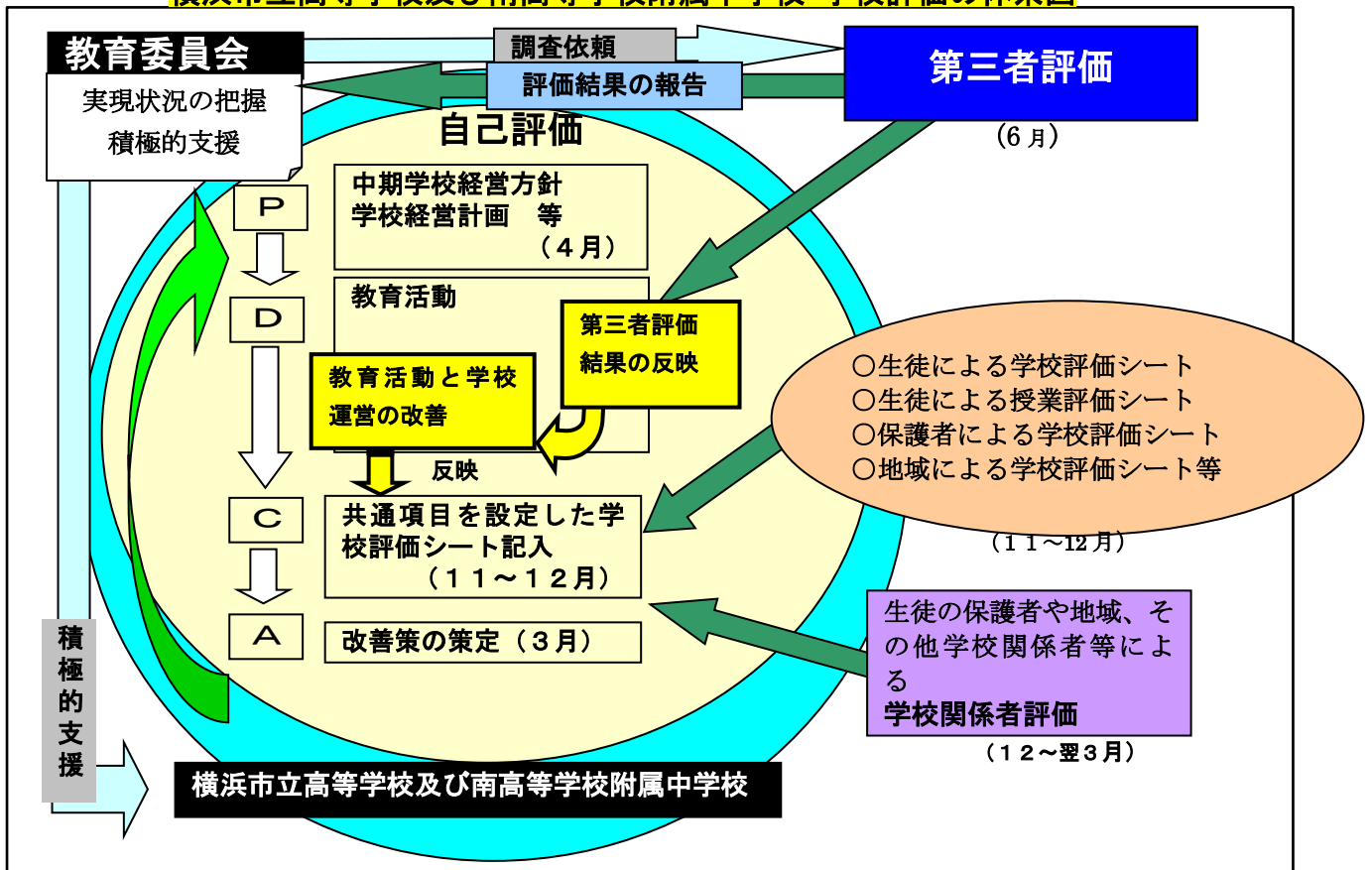
1 横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校の第三者評価

平成 25 年度の横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校の第三者評価は次のように実施しました。

- 外部の専門家等による学校運営に関する「第三者評価」の実施
 - ・ 3校の訪問調査
 - ・ 訪問調査時に評価者からの講評を受け、教育活動と学校運営の改善に反映
- 教育委員会は、第三者評価結果をとりまとめ、公表
 - ・ 教育委員会は各学校の教育環境の改善に向けた必要な措置など、教育行政の施策に生かす

次の図は、学校評価全体の流れを図にまとめたものです。

横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校 学校評価の体系図



2 平成 25 年度の訪問調査の方法・調査校・日程

(1) 方法

3 チームを編成し、3 校の訪問調査を実施。調査内容は、24 年度の「自己評価書」「学校関係者評価書」及び 25 年度の「学校経営計画」についての校長からの説明の後、授業参観、施設・設備の観察、教職員（校長・副校長・教務主任等）からのヒアリング、在校生との対話です。

当日に第三者評価者から直接学校長・副校長に講評があり、その後高校教育課で評価と講評をまとめました。

(2) 調査校と日程

桜丘高校 平成 25 年 6 月 11 日

横浜商業高校 平成 25 年 6 月 12 日

戸塚高校 平成 25 年 6 月 26 日

3 第三者評価者及び担当校

氏 名	所 属 等	担 当 校
小松 郁夫	常葉大学教職大学院教授	桜丘高校
落合 優	横浜創英大学教授	桜丘高校
栗原 秀泰	横浜市 P T A 連絡協議会会長	桜丘高校
永野 和行	横浜市教育委員会人権教育児童・生徒課 嘱託員	桜丘高校
植田 みどり	国立教育政策研究所総括研究官	横浜商業高校
田代 正樹	株式会社たしろ薬品代表取締役社長	横浜商業高校
細山 洋子	横浜市立南希望が丘中学校長	横浜商業高校
坂野 慎二	玉川大学大学院教育学研究科教授	戸塚高校
田中 時義	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長	戸塚高校

※所属等は調査時のものです。

訪問調査校の評価

※評価基準 : A (満足) B (概ね満足) C (要努力)

桜丘高校

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況 評価 : A 4人

観点『「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか』

- 「進学指導重点校としての使命に対する取組は順調。進学指導ばかりでなく、生涯を見据えた進路指導への配慮や、学業と部活動との調和についても目が向けられ、健全な進学指導の実現が図られている。

2 教育活動の状況

(1) 教科指導 評価 : A 1人 B 3人

観点『生徒の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教職員は授業力向上に努めているか。』

- 生徒の教科指導に対する評価が高く、早朝の学習支援、休暇中における講習・補習の実施、自習室の充実、生徒の学習課題の設定など工夫した取組を進めている。
- 教え込み型ではない方法を工夫し授業改善を図ってほしい。

(2) 進路指導 評価 : A 4人

観点『進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか』

- 進路指導部の体制を変更し、進路指導の充実に向け取り組んでおり、学校全体での取組へと発展している様子が窺える。

(3) 教育課程 評価 : A 4人

観点『学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がされているか』

- 教育課程の運営上の課題を確認し、その対応、指導計画の工夫など積極的に取り組んでいる。

3 学校経営の状況

(1) 組織運営及び教職員研修 評価 : A 4人

観点『教職員が意欲的に業務に取り組める組織である。また、課題解決のための教職員研修が行われているか』

- 校務分掌の整理、委員会数の削減、会議時間の短縮など組織、運営の両面で取り組んでいる。
- 授業評価や授業公開週間を実施して教職員の授業力向上に努めている。また教職員研修については積極的な取組がなされている。

(2) 保護者・地域等との連携協力 評価 : A 3人 B 1人

観点『学校から教育活動についての情報提供を行い、保護者及び地域との協力体制があるか』

- 保護者、地域との連携については、PTA活動や、地域や近隣小・中学校との連携、部活動生徒による地域ボランティアなどの取組がなされている。

(3) 教育目標等の設定・実施 評価 : A 2人 B 2人

観点『教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか』

- 学校教育目標が明確に設定され具体的な取組を行っている。それが、教職員はもとより、生徒・保護者にも集会・PTA便り・HPなどで周知されている。

4 総合所見

- 進学指導重視で、ともすると陥りがちな受験対策一辺倒なあり方でなく、部活動や学校行事、地域貢献など幅広い視野で生徒の健全な育成をめざしている。
- 知識基盤社会やグローバル化社会で求められる「確かな学力」の一層の充実・育成を目指し、リーダー的な生徒の育成と潜在的に能力や才能を秘めている生徒の伸長を実現してほしい
- 桜丘高校の取組 (SP36) を活用し、学校改善をより積極的かつ具体的に推進されることを期待している。

横浜商業高校

1 横浜市長高等学校教育振興プログラムの推進状況 評価：A 2人 B 1人

観点『「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか』

- 商業科、国際学科と性格の異なる二つの学科をうまく共存させている。
- 「Y校」としての商業科の特色を示し、国際学科、そして平成26年度からのスポーツマネジメント科と共に3つの柱として「Y校」の特色を示した教育活動を展開することを期待したい。

2 教育活動の状況

(1) 特別活動・部活動 評価：B 3人

観点『生徒は主体的・自立的な活動を行い、学校は活動の活性化に努めているか』

- 運動部、文化部共に全国及び関東大会レベルの実績を有する部があり、生徒は積極的に取り組み、文武両道に励んでいる。
- 生徒が学校生活を主体的に送っている状況が窺われ、生徒会活動や部活動での意欲的な取組が学校の雰囲気全体を活力あるものになっている。伝統校として積み上げてきた成果や実績が生徒たちの誇りとなり新たな目標にもなっている。

(2) 進路指導 評価：A 1人 B 2人

観点『進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか』

- 生徒に対して多様な進路選択の機会が提供されるような進路指導及びキャリア教育が展開されている。また、生徒に対して常に意識を啓発する取組もなされている。
- 1年次から目的意識を持った取組がなされ、自分の個性や特性を生かした進路決定ができています。

3 学校経営の状況

(1) 教育目標等の設定・実施 評価：A 1人 B 2人

観点『教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか』

- 教育目標については保護者と生徒に一定の理解を得ながら、その具現化に向けた実践が行われている。
- 教育目標達成に向け、教職員間での課題意識の共有は出来ているものの、その課題解決のため保護者や地域を巻き込んだ取組までには至っていない。保護者や地域の理解と参画意識を啓発し、実践していく必要がある。

(2) 保護者・地域等との連携協力 評価：A 1人 B 2人

観点『学校から教育活動についての情報提供を行い、保護者及び地域との協力体制があるか』

- 伝統校として地域からの信頼も厚く、地域との連携協力を構築する基盤がある。
- 隣接する南太田小学校の生徒に英語を教えに行ったりするほか、近隣商店街でのボランティア活動など様々な地域活動を行っている。
- 「Y校」の知名度を生かし、もう一步踏み込んだ横浜商業らしい地域連携活動に取り組んでほしい。
- 保護者も共に学校教育を支える立場として捉え、教育活動の具体や生徒の状況などを積極的に広報することが重要である。アンケート結果によれば、学校の情報などが生徒から保護者に十分伝わっていない状況も散見され、情報発信の工夫や連携協力体制の構築に期待したい。

4 総合所見

- 長い歴史の中で育まれた伝統が代々引き継がれており、その伝統を守りながらも、時代の変化やニーズを見据え柔軟なシフトを敷きながら進化させるなど新しい変革も進められている。高校教育は、生徒たちの期待に応えることだけでなく、社会のニーズにも応えるべき人材育成の場としての役割があり、その視点がしっかりと学校経営に反映されている。
- アンケート結果では保護者の学校生活などに対する評価が生徒の評価と比べ低い。保護者と教職員との座談会を開催するなど相互理解と改善に向け取り組んでほしい。

戸塚高校

1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況 評価：B2人

観点『「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか』

- 音楽コースではプロジェクトチームを結成し、開設準備が着実に進められており、新たな「戸塚高校」の魅力としての検討が進められている。
- 施設の改修などを含め、普通科の中での音楽コースとして、入学者受け入れ、教育課程、卒業後の進路を合わせて計画を進めてほしい。
- 戸塚高校の教育目標である「自主・協働・連帯」のもとに2つのコースを設置する戸塚高校全体としてのミッションを明確にしてほしい
- 教育課程編成上の問題もあるが、前期・後期で履修科目が変わるような制度、また一般コースも含め音楽コースの良さを享受できるような方策を検討してほしい。

2 教育活動の状況

(1) 教科指導 評価：B2人

観点『生徒の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教職員は授業力向上に努めているか』

- 模擬試験などの活用により、生徒の学力状況を把握し、生徒の学習への意欲を向上させる取組がなされている。特に、早い段階から、徹底した振り返りを行うことにより、学習への意欲が高まっている。
- 授業改善は現状の生徒の状況を踏まえた上で、どのような力をつけることが必要かという視点から学校全体で目標を設定し、授業改善のテーマを共有化して取り組むことが必要である。

(2) 生徒指導・教育相談 評価：B2人

観点『生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて教職員一丸となって取り組んでいるか』

- 規範意識を高めるための地道な対応が行われており、生徒も節度をもった生活を送っている。また、教育相談の取組も進められている。
- ケース会議のような組織的な取組を充実することにより、課題の共有化を図り、チームで対応することや外部関係者との連携を強化してほしい。

3 学校経営の状況

(1) 組織運営及び教職員研修 評価：B2人

観点『教職員が意欲的に業務に取り組める組織である。また、課題解決のための教職員研修が行われているか』

- 校長の方針が浸透してきており、学校経営にかかる組織についても、一定の整理がなされてきている。
- 「戸塚高校」をどのような学校としていくかという基盤となる理念を共有化する取組を行い、個に頼りがちな運営の改善につなげてほしい

(2) 保護者・地域等との連携協力 評価：B2人

観点『学校から教育活動についての情報提供を行い、保護者及び地域との協力体制があるか』

- 保護者・地域等との連携については、多様な切り口から取組が進められており、保護者や地域から信頼される学校づくりが成果をあげてきている。

4 総合所見

- 生徒は学習にも教科外の諸活動にも真摯に取り組み、学校としても生徒の支援をきめ細かく行おうとする姿勢を持っている。その中で、新たな特色づくりの取組も進められており、今後に期待する。
- 生徒の学力が向上し大学進学者が増えている現状において教職員の授業力を育成することが必要である。
- 音楽コースについては施設の改修など財政による制約があるが、音楽コースのグランドデザインを明らかにし、将来像を明確に提示する必要がある。